

# 手稲 環(わ)プロジェクト



## mizu音(おと)でみんなつながっている

### 手稲さと川探検隊



大都市札幌に隣接する手稲山からは、豊かで美しい「水」が流れ出ています。

手稲さと川探検隊ではこれまで8年間、その水に育まれている川から海、源流の森に棲む多様な生きものたちを探し調べる活動を通して、水の大切さを体験学習してきました。

このたび平成24年度北海道e-水プロジェクトの助成をいただき、よりパワーアップした活動を行うことができました。またその結果を手稲住民および札幌市民に広く知っていただくことで、豊かで美しい札幌の「水」を中心とした自然環境を守り、未来に引き継いでいくことが出来ればたいへん嬉しく、かつe-水プロジェクトの目的にも適うものと思います。

豊かな水によって多様な生物を育むこの川から海、その源流である手稲山の森をフィールドとして、子供達とかつて子供だった親たち、地域の方々と共に自然の中に入り、生き物に触れ、遊び、感じ、癒され、育まれるよう、体験活動・生き物調査を展開しました。  
自然の中で遊ぶことの楽しさ、生息する多様な生物とその源となる水の大切さを体感し、自然と人とのかけわりの環を広げ、豊かな水を大切にしていける心が伝わると思います。

## 6回の活動を行いました

4月 カエルの卵ソン  
(蛙の卵探し)



5月 バードウォーク  
(野鳥観察遠足→MAPづくり)



7月 コウモリナイト  
(川流れ&コウモリ観察)



6月 川の生きもの  
モニタリング(1)



9月 川の生きもの  
モニタリング(2)



11月 川の生きもの  
モニタリング(3)



4月28日 カエルの卵ソン

(蛙の卵探し)



カエルの卵がありそうな場所を地図で探します。



水辺でカエルの卵を探します



卵のあった場所なかった場所を地図に落とします

身近な生き物で、手稲さと川探検隊でも子どもたちの人気者「カエル」。しかし、数年前円山動物園のイベントでカエルの卵を展示したとき、初めて見るという子ども達がたくさんいました。また、子どもの親に聞いても懐かしいというけど最近は見えていないとのこと。身近だったカエルは最近減っているのでしょうか。

そこで、手稲さと川探検隊では地元の手稲近郊でカエルの卵がどこにあるか調べてみることにしました。長い間継続した調査になることを期待して、調査名はカエルの卵ソンとしました。マラソン調査として実施されている植物調査のフラワーソンに習ってつけた名前です。調査対象は春に水辺で卵の塊である卵塊が見られるエゾアカガエルとしました。エゾアカガエルの卵塊は雪解けのころに水溜りで見られ、直径約15cmゼリー状の卵塊には1000個ほどの卵があります。

調査は手稲とその周辺で水辺を調べ、卵が見られた箇所を地図に書き込んで記録する方法でしました。今回で2年目の調査、みぢかな生きもの研究所所長のざりがに探偵団主宰齋藤和範先生の指導で実施しました。まず古い地図や航空写真を使って、エゾアカガエルが住んでいそうな場所を探します。そして実際にその場所に行ってみて、参加した子ども達や大人たちと一緒に探す方法で実施しました。調査を通して参加者がエゾアカガエルやそれを育む自然に親しみ学んでいくことも目的の1つです。調査場所は手稲山北斜面の森、平地の住宅地や農地、公園などいろいろな環境で水辺を探し、カエルの卵塊の有無や数を調べました。子ども達も卵をたくさん見つけました。しかし、雰囲気はいいのに卵が見つけれない水辺もありました。

戻ってきて、皆で結果をまとめました。すると手稲山北斜面の森ではいたるところの水辺に卵塊が見られ、住宅地ではまとまった樹林地のある公園の池で多くの卵塊が見られました。しかし森から離れた水溜りでは卵はほとんど見られませんでした。ただ、1つ2つの卵塊が見られた水溜りは平地にもあり、見つけられていないだけかも知れません。まだまだよく調査をすれば見つかる箇所があると思います。さらに、近接する森の広さやどんな森だったのかなど、まだわからないことだらけです。

調査はまだ始めたばかり、調査した箇所も少ないし、まだ調査をしたい場所もたくさんあります。そしてこれからも長く調査を続けていこうと考えています。もちろん来年の春も調査を実施します。さらに、昔はここでも見られたとか、最近ここで見たなどの情報も常に募集中です。

(手稲さと川探検隊スタッフ 姫田 丞)

5月19日 バードウォーク

(野鳥観察遠足→MAPづくり)

旭山森と人の会代表 皆川昌人さんを講師として迎え、総勢12名で、春の野鳥を観察しながら、手稲山北尾根ルート登山口～星置川の河口までの約8kmを歩きました。

はじめは、手稲山の山裾で森林に生息するコリリ、メジロ、キビタキ、ハヤブサなどを見ることができ、そこから星置川の横を河口へ向かって山を下りてくると、ハシブトガラス、ヒヨドリなどの街で見かける鳥たちや、モズ、ホオジロなどの川の堤防やヨシ原に住む鳥たちが見られるようになり、日本海まで到達するとウミアイサ、キアシシギ、オオセグロカモメなどが迎えてくれました。この日見つけた鳥は、6目22科37種とたくさんの種類の鳥たちを見つけ、そして8kmをみんなで歩かせることができました。

昨年と今年の成果を1枚のバードマップにまとめました。森、街、川、海それぞれの鳥がわかりやすく手稲の地図に載せました。ぜひ参考にして下さい。



林の中を歩きます



川に沿って海を目指します



頑張って海に到着!





川遊びは最高!



生きものいっぱいいるね〜



どんな生きものがいたかな?



じゃ、見る前にコウモリを描いてみよう



さて、晩ご飯を食べて・・・

中島宏章さんからコウモリの話を聴きます



北大の研究チームがかすみ網を設置



いよいよコウモリを探しに行きます



捕まえたドーバントンコウモリ

6月2日 川の生きもの  
モニタリング(1)

毎年同じ時期(初夏と秋)、同じ場所で、  
生きものを捕まえて調べています。



三樽別川



星置川



こんなカニも捕まえたよ!



9月15日 川の生きもの  
モニタリング(2)



～指導してくれた齋藤和範先生から～

普段何気なく見ている川ですが、そこには魚だけではなく多くの小さな生物が棲んでいます。これらはわずかな生息環境の違いによって、棲んでいる種が異なるのです。川の環境のわずかな変化にも、これらの生物は敏感に反応して、いなくなったり、ある種だけが異常に増えたりします。

河川環境の変化を感じ取るために、川の生物のモニタリングはとても重要な手段です。手稲さと川探検隊で行っている観察会やモニタリングは、子供たちに川の生物を通じて河川環境を考える良い材料となっています。川遊びの中でそれらに接し、生物に関心を持ち調べる事によって、いつの間にか身の回りの自然環境に関心を持つ事でしょう。

身近な足下の自然を見つめ直すという活動は、自然環境保全の第一歩です。多くの子供たちが参加するこのような地道な活動を、これからも応援していきたいと思っています!!

ざりがに探偵団主宰

みぢかな生きもの研究所所長 齋藤和範

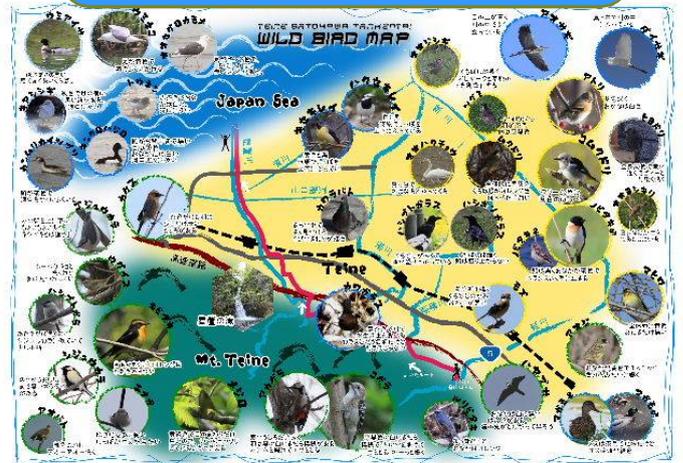
11月11日 川の生きもの  
モニタリング(3)  
(ソーティング)



斉藤先生が分類のキモを伝授



手稲バードマップ 完成しました!



これらの活動は、北海道、北海道ココ・コーラボトリング(株)、(財)北海道環境財団による協働事業「北海道e-水プロジェクト」助成金によって実施されました。

自然の中で見せる子ども達やオトナたちの輝く目や真剣な表情、そして笑顔、心を澄ますとを感じるざわめく生き物たちの息吹。。。そんな時を同じ時代を生きている仲間たちと持つことにご支援いただき、本当に感謝しています。ありがとうございました。

手稲さと川探検隊局長 鈴木 玲

手稲さと川探検隊

会員募集中!

★手稲さと川探検隊の仲間になりませんか?

手稲さと川探検隊では、会員とボランティア・スタッフを募集しています。

1. 探検隊員：川の生きもの調べなどのイベントに参加できる方  
年会費：1人1,000円 (ファミリー隊員 1家族1,800円)
2. 応援隊員：手稲さと川探検隊の活動を応援してくださる方  
活動応援費：1回 500円
3. スタッフ：各イベントの実施サポート、広報・企画などお手伝いしてくださる方



※イベント等のご案内、ニュースレターの送付などをさせていただきます。

手稲さと川探検隊

連絡先 (代表) 鈴木 玲 Tel 080-1891-7847

〒006-0807 札幌市手稲区新発寒7条6丁目8-19

E-mail t-satogawa@mail.goo.ne.jp

ホームページ

<http://t-satogawa.com/>

市民活動サポートセンター登録No. 41939